

## 第8課 中華料理店へ行く

### 1. この課のねらい

- (1) 待ち合わせの場所と日時についての確認の仕方を、地図を書いてもらうことを含めて身に付けさせる。
- (2) 目的の場所を探すための質問の仕方ややりとりを、言葉の不自由さを補うための地図の利用も含めて学習させる。
- (3) 食堂や喫茶店での注文の仕方のうち、最小限の表現を習得させる。

### 2. 学習項目とその扱い方

#### 〔会話一〕

#### (1) 学習項目表

区分	使 用	理 解
最重要項目	○その店、何という店ですか。(1) ○川口駅のそばですか。(5)	○東友ストアの すぐそばなんです が、東友ストアは 知っていますか。 (6)
重要項目	○いいえ、知りません。(7)	○駅から 5分ぐらいですね。(6)

#### (2) 準備

- ①学習者が覚えておくといわれる食堂、喫茶店や映画館などへの行き方を確かめておく。また、待ち合わせに使われそうな場所をいくつか考え、そこまでの行き方を確かめておく。あるいは、学習者がよく行く店、お勧めの店などを聞いておく。
- ②また、店の名前や場所をかえた応用会話のテープも用意しておく。

#### (3) 導入

会話本文や応用会話のテープを聞かせて「何という店に行きますか」「その店はどこにありますか」などと質問してみる。

また、学習者に向かって「～さん、今度の日曜日によかったら、食事を一緒にしませんか。川口に、いい中華料理店があるんですよ」と誘ってみるのも一つの方法である。

あるいは、「駅のそばに、いい中華料理店があるんですが、知っていますか」と聞いたり、逆に、「～さん、おいしい中華料理店を知っているそうですね。何という店です

か」と、学習者の知っている店を話題にしたりして会話を進め、学習者の予習の程度を調べる。

(4) 練習

①予習が十分にできていれば直ちに練習に入ってよいが、問題があれば個々の練習をしてから会話の練習に入る。教授者の知っている店や映画館、あるいは、学習者から聞き出しておいた店を話題にする。

②「何という店ですか」は、いろいろな物や絵、写真を使って学習者に「何という花ですか」「何という動物ですか」などと質問させる練習をする。答えは、学習者の中で分かる者に「～という～です」という表現を用いて答えさせればよい。

③「川口駅のそばですか」というような位置の表現に問題があれば〔1. 表現練習〕を行い、「～のそば／前／横……」という表現を定着させてから〔2. 会話練習〕を行う。学習者同士、近くの店や知っている店を教え合うとよい。

④「知って(い)ます」、「知りません」については形として定着させ、「知ります」、「知って(い)ません」が出ないように注意する。「分かる」は〔会話－2〕に出てくるが、その使い分けについては「文型・文法に関する参考事項(3)」を参照してほしい。

〔会話－2〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○だいたい 分かると思います。(3) ○はい。じゃ、日曜日の6時に。(5)	○ええと、これが 川口駅で、東口で降りて、ここが 東友ストアですから、この裏です。分かりますか。(2) ○じゃ、6時に、北京菜館で。(4)
重要項目	○ちょっと 地図を 書いてくださ いませんか。(1)	

(2) 準備

〔会話－1〕で話題にした店とその周辺の地図が書けるようにしておく。

(3) 導入

〔会話－1〕で使った店の名前をあげ、「じゃ、6時に会いましょう。場所は分かりますか」と聞いてみる。あるいは店の場所を口頭で説明し（早口で分かりにくく説明

するとよい。)、学習者に「ちょっと地図を書いてくださいますか」と言わせる。

#### (4) 練習

①予習が十分に行われていれば、いろいろな店を話題にして会話の練習をする。実際に地図を描いたり、市販の地図などを使ったりして説明する。

また、学習者の知っている店については、地図を使って説明させてみる。

②「分かると思います」については、まず基本形(辞書形)の練習を行う。((6.表現練習)参照)このとき、今までに学習した動詞を活用の形式から三つに分類して整理しておくとうよい。(「文型・文法に関する参考事項(2)」参照)また、分類する上で便利なので、是非ここで「～ない」の形も説明し、併せて練習もしておきたい。形が定着したら、「明日は雨が降りますか」「～さんはタバコを吸いますか」というような質問をして、答えさせるような練習をさせたい。

③「じゃ、6時に北京菜館で」、「はい。じゃ、日曜日の6時に」については、「～の～に～で(会い)ましょう」という形にして置きかえ練習をする。((3.表現練習)参照)また、一度に長い表現が言えなかったり助詞を誤用したりするようだったら、「6時」→「6時に会いましょう」、「北京菜館」→「北京菜館で会いましょう」、というような短い表現から始めて、助詞を定着させながら徐々に表現を長くしていくとうよい。スピードもだんだん上げていく。

④「ちょっと地図を書いてくださいますか」については、「地図を書きます」→「地図を書いてくださいますか」というような形の練習が可能である。また、「くださいますか」を「いただけますか」にかえて練習してもよい。((4.表現練習)参照)なお、「いただけますか」の方がより柔らかく無難であるので、こちらの方に重点を置いて練習していくのも一つの方法である。何か場面を与えて文を作らせる練習(例えば「その店の場所が分からないんですが……」と言って学習者に「地図を書いてくださいますか/いただけますか」という表現を作らせる練習)も可能である。

〔会話一3〕

(1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○あのう、この地図を 見てくださ い。東友ストアの裏です。(10)	○ああ、東友ストアなら、あの信号 を右に 曲ったところですよ。(11)
重要項目	○北京菜館へ 行きたいんですが…。 (3) ○どうも、すみませんでした。(会釈 して別れる。)(5) ○はい、分かりました。どうもあり がとうございました。(12)	

(2) 準備

〔会話一2〕で描いた、あるいは使用した地図を用意しておく。練習として、実際に学習者を外出させて道を聞かせる場合は、近辺の地図などを用意し、目的の場所をどこにするか考えておく。また、テープレコーダーやテープ、小型のマイクなどもできれば用意する。

(3) 導入

〔会話一2〕で出た話題を使い、その店への行き方を学習者に言わせる。学習者の知っている店であれば、反対に教授者が行き方を尋ねる。その後、会話本文のテープを聞かせ「どこへ行きたいのですか」「どこにあるのですか」などと質問して、予習の程度を確認する。

(4) 練習

①問題なく道が聞けるようなら、応用練習をする。通行人が店の場所を知らない場合、聞き手が地図を持っている場合、あるいは駅や町角にある地図などを使って聞く場合(同じような地図を用意して黒板か壁にはる。)など、いくつかの場面を用いる。学習者同士で質問させてもよい。

②「東友ストアの裏です」という表現は、〔会話一1〕で学習済みだが、まだ定着していないようなら、〔1. 表現練習〕を使って復習する。道の説明の仕方は、〔関連表現〕を参照していろいろかえてみて、学習者が理解できるかどうか確かめる。

③練習が十分にできたら、外へ出て、実際に通行人や近くの人などに道を聞かせてみる。学習者に、テープレコーダーを持たせて自分の会話を録音させ、後で直したり、

復習の材料として使ったりするとよい。二、三人ずつのグループに分けて、だれか一人が主に質問をして、ほかの人はそばで助けるということにしてもよい。

## 〔会話－4〕

## (1) 学習項目表

区分	使用	理解
最重要項目	○そうですね、そうしましょう。(10)	○林さん、ビールもらいましょうか。(9)

## (2) 準備

食堂や喫茶店のメニューを用意する。教室を利用して行う場合は、机や椅子を並べかえて、三、四人ずつのテーブルを作り、できればお盆、コップを用意しておく。また、実際に店に連れていく場合は、あらかじめ手配をしておく。

## (3) 導入

教授者が、ウェイター（ウェイトレス）になり、メニューを持って注文を取る。その際、その会話をテープに録音しておく。「お決まりになりましたか」「お飲み物は……」などと聞いてメモをとり、最後に注文を読みあげて確認をとる。その後、録音したテープを聞かせて、「何を注文しましたか」などと質問してみる。

## (4) 練習

- ① 勧誘、提案の表現「～ましょうか」と、同意の表現「そうですね。そうしましょう」を練習する。〔5. 会話練習〕の形で二人ずつ組にして練習させる。
- ② 「今度の日曜日に」「授業の後で」などというキューを与えて、学習者同士で会話させてもよい。また、何か勧められたとき、断わる表現も練習しておくもよい。(例：「あ、わたし、お酒は飲めないんです」など)

## 3. 文型・文法に関する参考事項

## (1) 理由節

- ① から——ある事実とそれに関連、または起因する事実や意志、推量、判断、要求などを述べる。(例：「明日は休みですからどこかへ行きませんか」、「あそこに係員がいるから、あの人に聞いてみたらどうですか」、「子供たちはきっと寝てるでしょう。もう10時だから」)
- ② ので——ある事実とそれに起因する事実を述べる。「～ので」の後に続く部分には

意志や推量、判断、要求などの主観的表現は表れない（例：「途中で銀行に寄ったので遅くなりました」「今日には行けません。ちょっと用事がありますので」）

(2) 動詞

動詞は、活用の形の上から次の三つに分類される。

	1			2		3	
区分	書 く	話 す	持 つ	見 る	食 べる	来 る	す る
～ない	かかない	はなさない	もたない	みない	たべない	こない	しない
～ます	かきます	はなします	もちます	みます	たべます	きます	します
基本形	かく	はなす	もつ	みる	たべる	くる	する
例	泳ぐ、死ぬ、呼ぶ、飲む、走る 買う など			着る、落ちる、感じる、 食べる、寝る、捨てる、つける など		来る、する	

(3) 知る／分かる

ア. 知る——「知っている／知らない」の形で使われ、そのことについて、情報を持っている／持っていない、という意味を表す。（例：「あの人の名前を／は\_\_\_\_\_」）

イ. 分かる——「分かる／分からない」の形で使われ、そのことを理解、分別できる／できない、という意味を表す。（例：「あの人の気持ちが／は\_\_\_\_\_」）

(4) 片仮名

片仮名は主として、外来語、外国の人名や地名などの固有名詞、動植物の名、擬声語と一部の擬態語、電報文などの場合に用いられ、長音は「ー」（横書き）か「丨」（縦書き）、促音は小さい「ッ」を添えて書き表される。